令和2年度学校評価

（静岡サレジオ高等学校）

静岡サレジオ学校評価委員会

教育目標（誠実な人間、良き社会人の育成　　）

静岡サレジオ高等学校　校長　沼波岳臣

	評価項目	評　価　内　容	自己評価		学校関係者評価
			評価点	学校としての反省・改善策	
1	教育目標	本校の教育目標「誠実な人・よき社会人の育成」「清い心・たゆまぬ努力」を達成するための取組みができている。	A	教員全員で教育目標達成のため、生徒や父母へ熱意を持って、丁寧に関わっている。	
2	宗教指導	本校はカトリック学校として全ての教育活動を通じ、その使命を果たしている。	A	イエス・キリストの愛の教えを根幹に置き、カトリックミッション校の歴史と伝統を堅持しつつ、生徒の発達段階や時代の変化に適切に対応する宗教行事や宗教教育を行った。「宗教」の時間のみならず、学校長や宗教部の教員が担当する朝礼の話や、毎日の朝夕のSHRにおいても担任が折に触れ、キリスト教的価値観の育成に努めている。	○ミッションスクールとしての一番大切な豊かな心がサレジオの子どもたちに育っているのを実感している。他者への思いやりの心が、子どもたちの自発的な発想から生まれている現実は本当に素晴らしいことだと思う。これからもドンボスコの予防教育、全人教育を通して、皆様が子どもたちの教育に献身してほしい。
3	教育課程	本校の教育課程は教育目標を達成するために、適切な工夫がされている。	A	探究学習が高校の教育課程でも始まり、各教員が授業研究を進めることができた。本来ならば2022年度より年次更新で行われる学習指導要領に合わせ、教育課程を一新し2年目を迎えているが、大きな混乱もなくスムーズに移行することができた。	
4	評価・認定	本校では生徒の努力の結果を正当に評価し、公正な単位認定が行われている。	A	生徒の努力結果を正当に評価ができるよう、テストや評価の研究を進めている。近年、生徒の学力レベルが向上していることを踏まえ、テストの難易度を上げ、より適正に評価できるように調整を行った。	
5	教科指導	本校では落ち着いた環境で生徒の学力をのばすための授業が行われている。	A	コロナ下の中で教員のICTスキルが飛躍的に向上し、普段の授業にもそれを活かすことができた。2021年度は、全教室に電子黒板が導入されるため、更なる授業技術の向上、研修を努めていく予定である。	○コロナ禍でウェブ授業を早期に始めていただいたことに感謝している。 ○緊急事態宣言後、速やかにオンライン授業が執り行えたことは、一足先をみたICT教育への取り組みが如実に現れ、素晴らしいと思った。
6	授業研修	教員の資質向上のため、授業研修や校内研修等が適切に行われている。	A	新任の教員が2020年度、多数入ったため、新任の先生方中心に研究授業を1人2回、合計10回以上行った。どの研究授業でも、事前検討、授業見学、事後検討を効率的に行い、授業技術を向上することができた。年2回の公開授業週間には、お互いの授業を見学し合い、互いの研鑽に勤めることができた。	
7	学級経営	本校では、学級活動や個別面談などを通じ生徒・保護者の意見が掌握されている。	A	各担任、各教科、各部活の顧問が綿密にコミュニケーションをとり、生徒、保護者の意見掌握を努めている。教員が1人1台スマートフォンを常備したり、PCが一人一台貸与されスムーズに学校内だけでなく、家庭との連携を強化することができた。	
8	生活指導	生徒を正しく導くために教師が共通理解をもち、生活指導に取り組んでいる。	A	常にドン・ボスコの予防教育法を念頭に置き、生徒自身が愛されていると納得できるように丁寧な指導を心がけている。女子の制服においては2種類のパンツスタイルを導入に、様々な要望に柔軟に対応できるようにした。SNSの問題等、時代に即した生徒指導に取り組むなみ、また時流を鑑みながらルールの改正や見直しも進めている。女子の制服においては2種類のパンツスタイルを導入に、様々な要望に柔軟に対応できるようにした。	○中高と多感な時期を落ち着いた環境で学ぶことができ、感謝している。 ○休校期間中、学校に行けず毎日家の中にいることはとてもストレスになっていたが、ウェブで朝から先生の顔が見れ、友達の声が聞こえたことは心の支えになったと思う。他校の保護者の話を聞いて、いかに先生方が生徒に寄り添っていただいているかがわかった1年だった。 ○先生方の中にはご挨拶してくださる方もいてとても嬉しい。
9	進路指導	生徒の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。	A	新型コロナウィルス感染症拡大による休校期間中は、従来から進めていたICT教育が一気に加速したが、教員も生徒もすぐに対応することができたので、進度に支障をきたすことは全くなく学習を進めることができた。のみならず、オンライン授業期間後もICTを活用した学習が定着し、コロナ対応によるオンラインでの推薦入試の面接等でも戸惑うことなく対応できた。エグゼコースにおいては、コロナ禍で進学合宿はできなかったものの、ICTを駆使して長期休暇中も学習指導を止めることなく、また頻繁な進路相談に応じることができ、効率のいい指導ができた。低学年からの工藤塾との業務提携も定着し、着実に成果が上がってきている。また本校の特色の1つにもなってきたサレジオメソッドは4年目に入り、講座内容が一層充実したものになってきた。検定においては英検1級2名や数学技能検定1級1名のほか多くの合格者を出し、生徒主体の活動も軌道に乗ってきた。幅広い自由な選択肢から生徒自らが自分の進むべき道を探ったり、進路に合わせた学びを深めたりして、最終学年で志望動機を固める際に生かすことができている。授業が暗記中心型から新しい学びのスタイルに移行しつつあり、メソッドでのトレーニングも相まって、調べたり考えることはもとより発信する力の育成も進んでいる。推薦希望者全員に課しているエントリーのプレゼンや他校生を交えた地域の活動やフォーラムなどで、そうしたプレゼン力の確実な向上がうかがえる。一方、コロナ禍のために例年実施してきたフロンティアコースの大学見学や多数の大学の先生方をお招きする進路ガイダンスが実施できず、オープンキャンパスや対面型の説明会が実施されない中での進路選択に困難を感じている。したがって今まで以上に早くから進路情報の収集にあたる必要性があり、新たな指導の在り方の検討も進めたいと考えている。	○3年生の進学実績の評価だけでなく、サレジオの対外的な進学校としての位置づけが確立し、れいわ　3年度の在校生数が過去最高となる事実は、理事長はじめ教職員の方々の努力の成果だと思う。今後もサレジオの発展のため頑張ってほしい。 ○休校期間中に他校に子どもを通わせている親御さんから「サレジオはオンラインで授業をしていると聞いたけど、うちの学校はずっと休みで心配だ」という話を聞いたとき、状況や変化に素早く対応できていていてよかったと思った。 ○英検の対策など、先生方が個々に対応してくださっていることもありがたいと思っている。このような時だからこそ、進路、資格等、子ども一人一人に何ができるのか、何がしたいのかなど相談や助言をお願いしたい。

10	安全管理	生徒の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	B	南門には登下校時に毎日守衛を配置し、カレッジ教員も一日おきに校門に立って生徒の安全を見守りつつ、自転車通学者や歩行者のマナー向上および交通安全指導に努めている。校内各所に監視カメラを設置して不審者の侵入に備え、多数の外来者が入場するサレジオ祭などの行事においては担当者を決め、事前に防犯対策を練っている。警察からの不審者情報があれば速やかに他の校種と連絡を取るとともに、全教職員で情報を共有した上で、必要に応じて生徒たちへの注意喚起を行っている。全教職員、保護者、出入り業者への身分証の所持や、門扉の開錠時間を制限、不審者の侵入防止対策強化も定着してきている。台風や豪雨に際しては早め早めの情報収集を心がけ、「webでお知らせ」も活用しながら、生徒及び保護者に休校や登下校時間の変更を通知し、危険回避に努めている。地震等の防災対策では定例の避難訓練のあり方の見直しを検討することでマンネリ化を防ぐことを検討している。しかしながら、今年度はコロナ禍のために全校生徒が一斉に札まったり接触するような従来型の避難訓練の実施ができず、教職員の救命講習もできなかった。今後は感染症拡大の状況を見極めながら、十分な対策をとりながらの訓練や研修のあり方を検討していきたい。	○コロナ禍におき、学校運営の中で煩雑なことも多々あったと思いますが、生徒たちの安全を考え工夫してくださったことに感謝している。 ○今年度はコロナ禍のため、全校生徒での避難訓練ができなかったが、常に避難経路や集合場所、保護者との連絡方法などの確認や備えができれいればいいと思う。
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	各分掌の部長がそれぞれ責任をもって運営をしている。教員それぞれの分担や仕事内容の見直しを進めており、一部の教員に負担が偏る傾向は是正されつつある。一方でコロナ禍によって当初予定されていた行事が中止や延期になったことによって、従来通りとはいかない業務も増えて対応に苦慮することもあった。	
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らしして十分にその役割を果たしている。	B	各行事の責任者が責任をもって運営を行っている。コロナ禍によって残念ながら中止になった行事もあり、定例の行事についてはいかに後継の学年や担当者に伝えていくかに課題を感じる。例年とは違う運営が求められる場面も多く、間際になって準備に追われることもしばしば見られた。またコロナ対応で密を避けるためだけでなく。児童・生徒数の増加にともない、全校生で一堂に会することも困難になったため、鋼種別に全く新しい形を作る必要のある行事も出てきた。行事の見直しと新たな改善発展の機会ととらえ、検討を進めたい。	○行事運営に関して、学校では多くの行事を通しても子どもたちは学んでいると思う。コロナ禍の最中ではありますが、生徒たち自身でも工夫し、協力し合う意見を出させてぜひ本年よりも多くの行事を取り入れてほしい。 ○各行事や学校だより等のお知らせをもう少し早い段階でいただけると大変助かる。 ○コロナ禍で学校行事に参加できず、学校や生徒の様子をあまり聞けなかったのが残念だった。 ○たくさんの行事がなくなる中で、最大限何ができるか考えてくださっていることがよくわかる。 ○コロナが落ち着いた後の授業・各種行事等の運営をどのように行うかを検討する必要性を感じる。 ○同窓会主催や学校との共同主催の行事が中止になることがあったが、共通理解をし、同窓生にもその旨知らせることができた。 ○行事などが中止になり、生徒たちの力を発揮するチャンスができなかったことは残念。
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	各教員から学年部長、各校務分掌部長、教頭、学校長とそれぞれのレベルでの管理運営が明確に行われている。学年や時期によって繁忙期が異なるため、教員が一致団結し、助け合う姿勢を持ち仕事の取り組むことができた。	
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	B	学園全体のICT環境、SECOMを導入した校内のセキュリティ対策等、生徒、教職員が快適な環境で学校生活を送れるよう管理・整備を進めている。1号館2階と6号館の女子トイレ洋式化改装は終了したが、コロナ対策のためにも更なる保健衛生管理に力を入れたい。次年度からのPC一人一台環境に向け、情報セキュリティ対策も細心の注意を払って行っている。また、マリアンホール、メモリアルルームをはじめ照明設備のLED可やメンテナンスは順次進めているが、教室のブラインドや備品等の老朽化に伴う修理・保全・交換が必要な箇所についても常に点検をしながら、より快適な環境が提供できるよう努力している。	○各校種共に施設・設備の老朽化による生徒・児童の安全面に不安を抱えていることは心配。
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	ドン・ボスコの教育法であるアシステンツァ(共にいる)の精神をすべての教職員が意識して、放課後の活動に従事している。導入4年目を迎えたサレジオメソッドは内容がさらに充実し、バリエーションが増え、生徒たちも主体的に参加している。検定や資格取得を目指した講座、部活はもちろんのこと、地域の方々や行政、企業と連携しての活動が活性化している。ただし、コロナ禍の影響で運動部系では試合や大会の多くが中止になり、文科系の団体にとっては発表の機会がほとんどなく、目標を定めにくい状況が続いている。そうした状況下でも、どの団体もできること、できる方法を模索しながら活動に励んでいる。 土日祝日など休日に部活動の指導をした教職員の振替休日の取得などの管理運営は時間割の工夫や外部指導員などの雇用によって改善が進んだ。	○インスタグラムの活用で開示され、様子もわかりとても良いと思う。

全般、総合評価	A	・前年度末に3コース制、3期生の卒業生を送り出し、着実に進学実績を伸ばしたことから校内外の評価が高まり、教職員も生徒も自信とともに一層の向上心が見られる。・年度当初よりコロナ禍による休校期間からのスタートとなったが、ICT委員会主導のもと迅速な対応でオンライン授業を実施できたので、生徒にも保護者にも学習や進路の遅れ・不足といった不安を持たせることなく指導を進めることができた。・しかし学園最大の行事であるサレジオ祭や11年生の沖縄研修旅行が中止となったり、アメリカ研修をはじめとする国際交流プログラムやフィリピンスタディツアーもすべて中止となったために、生徒たちが力を発揮する場面や探究的な学びの機会が大幅に減少したことが残念である。そうした状況下でも進路指導部、各クラス担任、教職員は一丸となってできることや方法を探しながら一人一人の生徒の思い描く進路達成のため誠心誠意対応してきた。・今後も校内のICT化を一層進め、授業改善、生徒の技術向上の支援などをこれからも継続して積極的に進めたい。あわせて校務をより効率化し、教職員がより授業を中心とした業務に集中できる環境作りをしていきたい。	○教職員の皆様が多くの項目で高く評価なさっている通りに私たちも同意見。 ○今年度はコロナ感染症の対応に振り回されたが、サレジオの対応は他校に比べて良い評価であると聞いている。 ○コロナ禍にあっても先生方は一生懸命取り組んでいることがよく分かった。

【評価点】

A: 十分に成果があった
B: 成果があった
C: 少し成果があった
D: 成果がなかった

今後に向けての考え方（学校関係者評価を受けて）
コロナ禍は、むしろ「時代や社会の転換期に向けて舵を切り思い切って前進するための好機であった」と後に言えるように、今後も困難な状況であっても常に前向きに対応できる学校でありたいと思っております。それこそが困難な時代に青少年を導き続けた聖ヨハネ・ボスコの精神であるからです。進取の気性に富むサレジアンの特性を生かし、ICTの活用をはじめ、新たな行事や学びのスタイルの研究を進めてまいります。またサレジアンシスターズの創立者である聖マリア・マザレロ以来の精神も損なうことのないように、奢らず謙虚に、全教職員が笑顔で快活に子どもたちのために奉仕していくよう努めてまいります。保護者の皆さまから、もっと早くより多くの情報が欲しいという声が寄せられたことは、先の見えない状況下においてもっともなご意見であり反省すべき点です。行事が制限され、保護者の皆さまと対面でお目にかかる機会が減っても、コロナ禍を理由につながりが希薄にならないよう、より早く正確な情報を、学校だより・学級通信、その他のお知らせを生かしてお届けできるよう工夫を重ねる所存です。頻繁に双方向の連絡を取り合い、学校とご家庭との連携が強められるよう、心がけてまいります。